

## ヨハネの黙示録

## 第一章

イエス・キリストの黙示。この黙示は、神が、すぐにも起るべきことをその僕たちに示すためキリストに与え、そして、キリストが、御使をつかわして、僕ヨハネに伝えられたものである。ニヨハネは、神の言とイエス・キリストのあかしと、すなわち、自分が見たすべてのことをあかしした。三この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていいることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいていいるからである。

四ヨハネからアジャヤにある七つの教会へ。今いまし、昔いまし、やがてきたるべきかたから、また、その御座の前にある七つの霊から、五また、忠実な証人、死人の中から最初に生れた者、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、六わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さったかたに、世々限りなく栄光と権力とがあるように、アアメン。

七見よ、彼は、雲に乗ってこられる。すべての人の目に、彼を刺しとおした者たちは、彼を仰ぎ見ることに、

あろう。また地上の諸族はみな、彼のゆえに胸を打って嘆くであろう。しかり、アアメン。

八今いまし、昔いまし、やがてきたるべき者、全能者にして主なる神が仰せになる、「わたしはアルパであり、オメガである」。

九あなたがたの兄弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずかっている、わたしヨハネは、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。ことところが、わたしは、主の日に御霊に感じた。そして、わたしの方で、ラッパのような大きな声がするのを聞いた。二その声はこう言った、「あなたが見ていることを書きものにして、それをエペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤにある七つの教会に送りなさい」。三そこでわたしは、わたしに呼びかけたその声を見ようとしてふりむいた。ふりむくと、七つの金の燭台が目についた。四それらの燭台の間に、足までたれた上着を着、胸に金の帯をしめていいる人の子のような者がいた。五そのかしらと髪の毛とは、雪のように白い羊毛に似て真白であり、目は燃える炎のようであった。六その足は、炉で精錬されて光り輝くしんちゆうのようであり、声は大水のとどろきのようであった。七その右手に七つの星を持ち、口からは、鋭いもろ刃のつるぎがつき出ており、顔は、強く照り輝く太陽のようであった。

「わたしは彼を見たとき、その足もとに倒れて死人のようになつた。すると、彼は右手をわたしの上において言つた、「恐れるな。わたしは初めであり、終りであり、八また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である。そして、死と黄泉とのかぎを持つてゐる。」そこで、あなたの見たこと、現在のこと、今後起るうとすることを、書きとめなさい。二〇 あなたがわたしの右手に見た七つの星と、七つの金の燭台との奥義は、こうである。すなわち、七つの星は七つの教会の御使であり、七つの燭台は七つの教会である。

第二章 エペソにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。

『右の手に七つの星を持つ者、七つの金の燭台の間を歩く者が、次のように言われる。二わたしは、あなたのわざと労苦と忍耐とを知っている。また、あなたが、悪い者たちをゆるしておくことができず、使徒と自称してはいるが、その実、使徒でない者たちをためしめてみて、にせ者であると思ひ抜いたことも、知っている。三あなたは忍耐をし続け、わたしの名のために忍びとおして、弱り果てることがなかった。四しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまつた。五そこで、あなたはここから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい。もし、そうしない

で悔い改めなければ、わたしはあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう。六しかし、こういうことはある、あなたはニコライ宗の人々のわざを憎んでおり、わたしもそれを憎んでいる。七耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者には、神のバラダイスにあるいのちの木の實を食べることをゆるそう。』

ハスミルナにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。

『初めであり、終りである者、死んだことはあるが生き返つた者が、次のように言われる。九わたしは、あなたの苦難や、貧しさを知っている（しかし実際は、あなたは富んでいるのだ）。また、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくてサタンの会堂に属する者たちにそしられていることも、わたしは知っている。一〇あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない。見よ、悪魔が、あなたがたのうちのある者をためすために、獄に入れようとしている。あなたがたは十日の間、苦難にあうであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう。二耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者は、第二の死によつて滅ぼされることはない。』

三ペルガモにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。

『鋭いもろ刃のつるぎを持ってゐるかたが、次のように言われる。』三 わたしはあなたの住んでゐる所を知つてゐる。そこにはサタンの座がある。あなたは、わたしの名を堅く持ちつづけ、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住んでゐるあなたがたの所で殺された時でさえ、わたしに対する信仰を捨てなかつた。四 しかし、あなたがたに対して責むべきことが、少しばかりある。あなたがたの中には、現にバラムの教を奉じてゐる者がある。バラムは、バラクに教え込み、イスラエルの子らの前に、つまずきになるものを置かせて、偶像にささげたものを食べさせ、また不品行をさせたのである。五 同じように、あなたがたの中には、ニコライ宗の教を奉じてゐる者もゐる。六 だから、悔い改めなさい。そうしないと、わたしはすぐにあなたのところに行き、わたしの口のつるぎをもつて彼らと戦おう。七 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者には、隠されてゐるマナを与えよう。また、白い石を与えよう。この石の上には、これを受ける者のほかだれも知らない新しい名が書いてある。』

八 テアテラにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『燃える炎のような目と光り輝くしんちゅうのような足とを持った神の子が、次のように言われる。』九 わたしは、あなたのわざと、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐と

を知つてゐる。また、あなたの後のわざが、初めのよりもまさつてゐることを知つてゐる。一〇 しかし、あなたに對して責むべきことがある。あなたは、あのイゼベルという女を、そのなすがままにさせてゐる。この女は女預言者と自称し、わたしの僕たちを教え、惑わして、不品行をさせ、偶像にささげたものを食べさせてゐる。一一 わたしは、この女に悔い改めるおりを与えたが、悔い改めてその不品行をやめようとはしない。一二 見よ、わたしはこの女を病の床に投げ入れる。この女と姦淫する者をも、悔い改めて彼女のわざから離れなければ、大きな患難の中に投げ入れる。一三 また、この女の子供たちをも打ち殺そう。こうしてすべての教会は、わたしが人の心の奥底までも探り知る者であることを悟るであらう。そしてわたしは、あなたがたひとりびとりのわざに応じて報いよう。一四 また、テアテラにゐるほかの人たちで、まだあの女の教を受けておらず、サタンの、いわゆる「深み」を知らないあなたに言う。わたしは別にほかの重荷を、あなたがたに負わせることはしない。一五 ただ、わたしが来る時まで、自分の持つてゐるものを堅く保つていなさい。一六 勝利を得る者、わたしのわざを最後まで持ち続ける者には、諸国民を支配する権威を授ける。一七 彼は鉄のつえをもつて、ちやうど土の器を砕くように、彼らを治めるであらう。それは、わたし自身が父から権威を受けて治めるのと同様である。一八 わたしはまた、彼に明け



の明星みようしょうを与える。二耳みみのある者は、御霊みたまが諸教会しよきやうかいに言うことを聞くがよい』。

第三章 サルデスにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。

『神かみの七つの霊れいと七つの星はしを持つたが、次のように言われる。わたしはあなたのわざを知っている。すなわち、あなたは、生きていっているというのには名なだけで、実は死しんでいる。二目をさましていて、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたのわざが、わたしの神かみのみまえに完全であるとは見ていない。三だから、あなたが、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起して、それを守りとおし、かつ悔い改めなさい。もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない。四しかし、サルデスにはその衣を汚さない人が、数人いる。彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩み続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である。五勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。六耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。

七ヒラデルヒヤにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。

『聖なる者、まことなる者、ダビデのかぎを持つ者、開けばだれにも閉じられることがなく、閉じればだれにも開かれることのない者が、次のように言われる。八わたしは、あなたのわざを知っている。見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。なぜなら、あなたには少ししか力がなかったにもかかわらず、わたしの言葉を守り、わたしの名を否まなかったからである。九見よ、サタンの会堂に属する者、すなわち、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくて、偽る者たちに、こうしよう。見よ、彼らがあなたの足もとにきて平伏するようにし、そして、わたしがあなたを愛していることを、彼らに知らせよう。十忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも、地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時に、あなたを防ぎ守ろう。十一わたしは、すぐに来る。あなたの冠がだれにも奪われないように、自分の持つているものを堅く守っていなさい。十二勝利を得る者を、わたしの神の聖所における柱にしよう。彼は決して二度と外へ出ることはない。そして彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、天とわたしの神のみもとから下ってくる新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを、書きつけよう。十三耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。

「二 ラオデキヤにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。

『アアメンたる者、忠実な、まことの証人、神に造られたものの根源であるかたが、次のように言われる。『五 わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。』六 このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。』七 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。一八 そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買いなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買いなさい。一九 さてわたしの愛している者を、わたしはしかつたり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。二〇 見よ、わたしは戸の外に立って、たたいてゐる。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいつて彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするのである。二一 勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につきませう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。二二 耳のあ

る者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。

第四章 一その後、わたしが見てゐると、見よ、

開いた門が天にあった。そして、さきにラッパのような声でわたしに呼びかけるのを聞いた初めの声が、「ここに上つてきなさい。そうしたら、これから後に起るべきことを、見せてあげよう」と言った。二すると、たちまち、わたしは御霊に感じた。見よ、御座が天に設けられており、その御座にいますかたがであった。三その座にいますかたは、碧玉や赤めのうのように見え、また、御座のまわりには、緑玉のように見えるにじが現れていた。四また、御座のまわりには二十四の座があつて、二十四人の長老が白い衣を身にまとい、頭に金の冠をかぶって、それらの座についていた。五御座からは、いならずまと、もろもろの声と、雷鳴とが、発していた。また、七つのともし火が、御座の前で燃えていた。これらは、神の七つの霊である。六御座の前は、水晶に似たガラスの海のようであつた。御座のそば近くそのまわりには、四つの生き物がいたが、その前にも後にも、一面に目がついてゐた。七第一の生き物はししのようであり、第二の生き物は雄牛のようであり、第三の生き物は人のような顔をしており、第四の生き物は飛ぶ鳥のようであつた。八この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その翼のまわりも内側も目で満ちてゐた。そして、昼も夜も、絶え間なくこう叫びつづけていた、

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者にして主なる神。」

昔いまし、今いまし、やがてきたるべき者」。

九これらの生き物が、御座にいまし、かつ、世々限りなく生きておられるかたに、栄光とほまれとを帰し、また、感謝をささげている時、二十四人の長老は、御座にいますかたのみまえにひれ伏し、世々限りなく生きておられるかたを拝み、彼らの冠を御座のまえに、投げ出して言った、

「われらの主なる神よ、

あなたこそは、

栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。

あなたは万物を造られました。

御旨によって、万物は存在し、

また造られたのであります」。

## 第五章

「わたしはまた、御座にいますかたの

右の手に、巻物があるのを見た。その内側にも外側にも

字が書いてあって、七つの封印で封じてあった。ニまた、

ひとりの強い御使が、大声で、「その巻物を開き、封印を

とくのふさわしい者は、だれか」と呼ばわっているの

を見た。ミしかし、天にも地にも地の下にも、この巻物

を開いて、それを見ることのできる者は、ひとりもい

なかった。四巻物を開いてそれを見るのにふさわしい者が

見当たらないので、わたしは激しく泣いていた。五すると、

長老のひとりがわたしに言った、「泣くな。見よ、ユダ族のしし、ダビデの若枝であるかたが、勝利を得たので、その巻物を開き七つの封印を解くことができる」。

六わたしはまた、御座と四つの生き物との間、長老た

ちの間に、ほふられたとみえる小羊が立っているのを見

た。それに七つの角と七つの目とがあった。これらの目

は、全世界につかわされた、神の七つの霊である。七小

羊は進み出て、御座にいますかたの右の手から、巻物を

受けとった。八巻物を受けとった時、四つの生き物と二

十四人の長老とは、おのおの、立琴と、香の満ちている

金の鉢とを手にとって、小羊の前にひれ伏した。この香

は聖徒の祈である。九彼らは新しい歌を歌って言った、

「あなたこそは、その巻物を受けとり、封印を解くにふ

さわしいかたであります。あなたはほふられ、その血に

よって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民

の中から人々をあがない、一〇わたしたちの神のために、

彼らを御国の民とし、祭司となさいました。彼らは地上

を支配するに至るでしょう」。

二さらに見てみると、御座と生き物と長老たちとのま

わりに、多くの御使たちの声が上がるのを聞いた。その

数は万の幾万倍、千の幾千倍もあって、三大声で叫んで

いた、

「ほふられた小羊こそは、

力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、



さんびとを受けるにふさわしい。<sup>三</sup>またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、

「御座にいますか」と小羊とに、

さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、

世々限りなくあるように」。

<sup>四</sup>四つの生き物はアアメンと唱え、長老たちはひれ伏して礼拝した。

**第六章** 小羊がその七つの封印の一つを解いた時、わたしが見ていると、四つの生き物の一つが、雷

のような声で「きたれ」と呼ぶのを聞いた。そして見

ていると、見よ、白い馬が出てきた。そして、それに

乗っている者は、弓を手に持っており、また冠を与えら

れて、勝利の上にもなお勝利を得ようとして出かけた。

<sup>三</sup>小羊が第二の封印を解いた時、第二の生き物が「き

たれ」と言うのを、わたしは聞いた。すると今度は、

赤い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、人

人が互に殺し合うようになるために、地上から平和を奪

い取ることを許され、また、大きなつるぎを与えられた。

<sup>五</sup>また、第三の封印を解いた時、第三の生き物が「き

たれ」と言うのを、わたしは聞いた。そこで見ていると、

見よ、黒い馬が出てきた。そして、それに乗っている者

は、はかりを手に持っていた。すると、わたしは四つ

の生き物の間から出て来ると思われる声が、こう言うのを聞いた、「小麦一ますは一デナリ。大麦三ますも一デナリ。オリブ油とぶどう酒とを、そこなうな」。

<sup>七</sup>小羊が第四の封印を解いた時、第四の生き物が「き

たれ」と言う声を、わたしは聞いた。そこで見ている

と、見よ、青白い馬が出てきた。そして、それに乗って

いる者の名は「死」と言い、それに黄泉が従っていた。

彼らには、地の四分の一を支配する権威、および、つる

ぎと、ききんと、死と、地の獣らとによって人を殺す権

威とが、与えられた。

<sup>九</sup>小羊が第五の封印を解いた時、神の言のゆえに、ま

た、そのあかしを立てたために、殺された人々の靈魂が、

祭壇の下に在るのを、わたしは見た。「彼らは大声で叫

んで言った、「聖なる、まことなる主よ。いつまであなた

は、さばくことをなさらず、また地に住む者に対して、

わたしたちの血の報復をなさらないのですか」。

すると、彼らのひとりびとりに白い衣が与えられ、それから、

「彼らと同じく殺されようとする僕仲間や兄弟たちの数

が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように」

と言ひ渡された。

<sup>三</sup>小羊が第六の封印を解いた時、わたしが見ていると、

大地震が起つて、太陽は毛織の荒布のように黒くなり、

月は全面、血のようになり、<sup>三</sup>天の星は、いちじくのま

だ青い実が大風に揺られて振り落されるように、地に落

ちた。<sup>一四</sup>天は巻物が巻かれるように消えていき、すべての山と島とはその場所から移されてしまった。<sup>一五</sup>地の王たち、高官、千卒長、富める者、勇者、奴隸、自由人らはみな、ほら穴や山の岩かげに、身をかくした。<sup>一六</sup>そして、山と岩とにむかつて言った、「さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。<sup>一七</sup>御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか」。

第七章 「この後、わたしは四人の御使が地の四すみに立つてゐるのを見た。彼らは地の四方の風をひき止めて、地にも海にもすべての木にも、吹きつけられないようにしていた。<sup>二</sup>また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかつて、大声で叫んで言った、「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまふまでは、地と海と木とをそこなつてはならない」。<sup>四</sup>わたしは印をおされた者の数を聞いたが、イスラエルの子らのすべての部族のうち、印をおされた者は十四万四千人であった。<sup>五</sup>ユダの部族のうち、一万二千人が印をおされ、

ルベンの部族のうち、一万二千人、ガドの部族のうち、一万二千人、<sup>六</sup>アセルの部族のうち、一万二千人、<sup>七</sup>ナフタリの部族のうち、一万二千人、

マナセの部族のうち、一万二千人、<sup>八</sup>シメオンの部族のうち、一万二千人、<sup>九</sup>レビの部族のうち、一万二千人、<sup>一〇</sup>イサカルの部族のうち、一万二千人、<sup>一一</sup>ハゼブルンの部族のうち、一万二千人、<sup>一二</sup>ヨセフの部族のうち、一万二千人、<sup>一三</sup>ベニヤミンの部族のうち、一万二千人が印をおされた。<sup>一四</sup>その後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゆろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立ち、<sup>一五</sup>大声で叫んで言った、

「救は、御座にいますわれらの神と小羊からきたる」。

御使たちはみな、御座と長老たちと四つの生き物とのまわりに立つていたが、御座の前にひれ伏し、神を拝して言った、

「アアメン、さこんび、栄光、知恵、感謝、ほまれ、力、勢いが、世々限りなく、

われらの神にあるように、アアメン」。<sup>一六</sup>長老たちのひとりが、わたしにむかつて言った、「この白い衣を身にまとい、わたしのひれ伏し、神を拝して言ったのか」。<sup>一七</sup>わたしは彼に答えた、「わたしの主



よ、それはあなたがご存じです」。すると、彼はわたしに言った、「彼らは大きな患難をとどめてきた人たちであつて、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。二五 それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。御座にいますかたは、彼らの上に幕屋を張つて共に住まわれるであらう。二六 彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。二七 御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となつて、いのちの水の泉に導いて下さるであらう。また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいとつて下さるであらう」。

第八章 小羊が第七の封印を解いた時、半時間ばかり天に静けさがあつた。二 それからわたしは、神のみまえに立っている七人の御使を見た。そして、七つのラツパが彼らに与えられた。

三 また、別の御使が出てきて、金の香炉を手持して祭壇の前に立った。たぐさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであつた。四 香の煙は、御使の手から、聖徒たちの祈と共に神のみまえに立ちのぼつた。五 御使はその香炉をとり、これに祭壇の火を満たして、地に投げつけた。すると、多くの雷鳴と、もろもろの声と、いなずまと、地震とが起つた。

六 そこで、七つのラツパを持っている七人の御使が、

それを吹く用意をした。

第一の御使が、ラツパを吹き鳴らした。すると、血のまじつた雹と火とがあらわれて、地上に降つてきた。そして、地の三分の一が焼け、木の三分の一が焼け、また、すべての青草も焼けてしまった。

第二の御使が、ラツパを吹き鳴らした。すると、火の燃えさかつている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして、海の三分の一は血となり、海の海の造られた生き物の三分の一は死に、舟の三分の一がこわされてしまった。

第三の御使が、ラツパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えている大きな星が、空から落ちてきた。そしてそれは、川の三分の一とその水源との上に落ちた。二 この星の名は「苦よもぎ」と言い、水の三分の一が「苦よもぎ」のように苦くなつた。水が苦くなつたので、そのために多くの人が死んだ。

第四の御使が、ラツパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれて、これらのものの三分の一は暗くなり、昼の三分の一は明るくなくなり、夜も同じようになつた。

三 また、わたしが見てみると、一羽のわしが中空を飛び、大きな声でこう言うのを聞いた、「ああ、わざわいだ、わざわいだ、地に住む人々は、わざわいだ。なお三人の御使がラツパを吹き鳴らそうとしている」。

## 第九章

## 第五の御使が、

ラッパを吹き鳴らし

た。するとわたしは、一つの星が天から地に落ちて来るのを見た。この星に、底知れぬ所の穴を開くかきが与えられた。二そして、この底知れぬ所の穴が開かれた。すると、その穴から煙が大きな炉の煙のように立ちのぼり、その穴の煙で、太陽も空気も暗くなった。三その煙の中から、いなごが地上に出てきたが、地のさそりが持っているような力が、彼らに与えられた。四彼らは、地の草やすべての青草、またすべての木をそこなつてはならないが、額に神の印がない人たちには害を加えてもよいと、言い渡された。五彼らは、人間を殺すことはしないで、五か月のあいだ苦しめることだけが許された。彼らの与える苦痛は、人がさそりにさされる時のような苦痛であつた。六その時には、人々は死を求めても与えられず、死にたいと願つても、死は逃げて行くのである。七これらのいなごは、出陣の用意のととのえられた馬によく似ており、その頭には金の冠のようなものをつけ、その顔は人間の顔のようであり、また、そのかみの毛は女のかみのようであり、その齒はししの齒のようであつた。八また、鉄の胸当のような胸当をつけており、その羽の音は、馬に引かれて戦場に急ぐ多くの戦車の響きのようであつた。九その上、さそりのような尾と針とを持ってゐる。その尾には、五か月のあいだ人間をそこなう力がある。二彼らは、底知れぬ所の使を王にいただ

いており、その名をヘブル語でアバドンと言ひ、ギリシヤ語ではアポルオンと言ひ。

三第一のわざわいは、過ぎ去つた。見よ、この後、なお二つのわざわいが来る。

四第六の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、一つの声が、神のみまえにある金の祭壇の四つの角から出て、五ラッパを持ってゐる第六の御使にこう呼びかけるのを、わたしは聞いた。「大ユウフラテ川のほとりにながれてゐる四人の御使を、解いてやれ」。一五すると、その時、その日、その月、その年に備えておかれた四人の御使が、人間の三分の一を殺すために、解き放たれた。二六騎兵隊の数は二億であつた。わたしはその数を聞いた。七そして、まぼろしの中で、それらの馬とそれに乗つてゐる者たちとを見ると、乗つてゐる者たちは、火の色と青玉色と硫黄の色の胸当をつけていた。そして、それらの馬の頭はししの頭のようであつて、その口から火と煙と硫黄とが、出ていた。八この三つの災害、すなわち、彼らの口から出て来る火と煙と硫黄とによつて、人間の三分の一は殺されてしまつた。九馬の力はその口と尾とにある。その尾はへびに似ていて、それに頭があり、その頭で人に害を加えるのである。一〇これらの災害で殺されずに残つた人々は、自分の手で造つたものについて、悔い改めようとせず、また悪霊のたぐいや、金、銀、銅、石、木で造られ、見ることも聞くことも歩くこ

ともできない偶像を礼拝して、やめようとしなかった。三また、彼らは、その犯した殺人や、まじないや、不品行や、盗みを悔い改めようとしなかった。

第一章 ○章 一わたしは、もうひとりの強い御使が、雲に包まれて、天から降りて来るのを見た。その頭に、にじをいただき、その顔は太陽のようで、その足は火の柱のようであった。二彼は、開かれた小さな巻物を手に持っていた。そして、右足を海の上に、左足を地の上に踏みおろして、三ししがほえるように大声で叫んだ。彼が叫ぶと、七つの雷がおのその声を発した。四七つの雷が声を発した時、わたしはそれを書きとめようとした。すると、天から声があつて、「七つの雷の語ったことを封印せよ。それを書きとめるな」と言うのを聞いた。五それから、海と地の上に立っているのをわたしが見た。あの御使は、天にむけて右手を上げ、六天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるものを造り、世々限りなく生きておられるかたをさして誓った、「もう時がない。七第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになつたとおり、神の奥義は成就される。八すると、前に天から聞えてきた声が、またわたしに語って言った、「さあ行って、海と地の上に立っている御使の手に開かれている巻物を、受け取りなさい。九そこで、わたしはその御使のもとに行つて、「その小さな巻物を下さい」と

言つた。すると、彼は言つた、「取つて、それを食べてしまいなさい。あなたの腹には苦いが、口には蜜のよう甘い。二わたしは御使の手からその小さな巻物を受け取つて食べてしまった。すると、わたしの口には蜜のよう甘かつたが、それを食べたなら、腹が苦くなつた。三その時、「あなたは、もう一度、多くの民族、国民、言語、王たちについて、預言せねばならない」と言う声が出た。

第一章 一それから、わたしはつえのような測りざおを与えられて、こう命じられた、「さあ立つて、神の聖所と祭壇と、そこで礼拝している人々とを、測りなさい。二聖所の外の庭はそのままにしておきなさい。それを測つてはならない。そこは異邦人に与えられた所だから。彼らは、四十二か月の間の聖なる都を踏みしめるであらう。三そしてわたしは、わたしのふたりの証人に、荒布を着て、千二百六十日のあいだ預言することを許そう。四彼らは、全地の主のみまえに立っている二本のオリブの木、また、二つの燭台である。五もし彼らに害を加えようとする者があれば、彼らの口から火が出て、その敵を滅ぼすであらう。もし彼らに害を加えようとする者があれば、その者はこのように殺されねばならない。六預言をしている期間、彼らは、天を閉じて雨を降らせないようにする力を持っている。さらにまた、水を血に変え、何度でも思うままに、あらゆる災害で地を



打つ力を持つてゐる。七そして、彼らがそのあかしを終えるとき、底知れぬ所からのぼって来る獣が、彼らと戦つて打ち勝ち、彼らを殺す。八彼らの死体はソドムや、エジプトにたとえられてゐる大いなる都の大通りにさらされる。彼らの主も、この都で十字架につけられたのである。九いろいろな民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめるが、その死体を墓に納めることは許さない。一〇地に住む人々は、彼らのことで喜び楽しみ、互に贈り物をしあう。このふたりの預言者は、地に住む者たちを悩ましたからである。二三日半の後、いのちの息が、神から出て彼らの中にはいり、そして、彼らが立ち上がったので、それを見た人々は非常な恐怖に襲われた。二三その時、天から大きな声がして、「ここの上つてきなさい」と言うのを、彼らは聞いた。そして、彼らは雲に乗つて天に上った。彼らの敵はそれを見た。二三この時、大地震が起つて、都の十分の一は倒れ、その地震で七千人が死に、生き残った人々は驚き恐れて、天の神に栄光を帰した。

二四第二のわざわいは、過ぎ去った。見よ、第三のわざわいがすぐに来る。

二五第七の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、大きな声々が天に起つて言つた、

「この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となった。」

主は世々限りなく支配なさるであらう。一六そして、神のみまゐで座についてゐる二十四人の長老は、ひれ伏し、神を拝して言つた、

「七今いまし、昔いませる、全能者にして主なる神よ。大いなる御力をふるつて支配なさつたことを、感謝します。」

一八諸国民は怒り狂いましたが、

あなたも怒りをあらわされました。

そして、死人をさばき、あなたの僕なる預言者、聖徒、小さき者も、大いなる者も、

すべて御名をおそれる者たちに報いを与え、また、

地を滅ぼす者どもを滅ぼして下さる時がきました。一九そして、天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契

約の箱が見えた。また、いなずまと、もろもろの声と、

雷鳴と、地震とが起り、大粒の雹が降った。

第一二章 一また、大いなるしるしが天に現れた。

ひとりの女が太陽を着て、足の下に月を踏み、その頭に十二の星の冠をかぶつてゐた。二この女は子を宿してお

り、産みの苦しみと悩みとのために、泣き叫んでゐた。

三また、もう一つのしるしが天に現れた。見よ、大きな、

赤い龍がいた。それに七つの頭と十の角とがあり、その

頭に七つの冠をかぶつてゐた。四その尾は天の星の三分

の一を掃き寄せ、それらを地に投げ落した。龍は子を産

もうとしてゐる女の前に立ち、生れたなら、その子を食

い尽そうとかまえていた。五女は男の子を産んだが、彼は鉄のつえをもつてすべての国民を治めるべき者である。この子は、神のみもとに、その御座のところに、引き上げられた。六女は荒野へ逃げて行った。そこには、彼女が千二百六十日のあいだ養われるように、神の用意された場所があった。

七さて、天では戦いが起つた。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦つたのである。龍もその使たちも応戦したが、勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。九この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。一〇その時わたしは、大きな声が天でこう言うのを聞いた、

「今や、われらの神の救と力と国と、神のキリストの権威とは、現れた。」

われらの兄弟らを訴える者、夜昼われらの神のみまえて彼らを訴える者は、投げ落された。

二兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼にうち勝ち、

死に至るまでもそのいのちを惜しまなかった。

三それゆえに、天とその中に住む者たちよ、

大いに喜べ。しかし、地と海よ、おまえたちはわざわいである。悪魔が、自分の時が短いのを知り、激しい怒りをもつて、

「おまえたちのところに下ってきたからである。」

一三龍は、自分が地上に投げ落されたと知ると、男子を産んだ女を追いかけた。二しかし、女は自分の場所である荒野に飛んで行くために、大きなわしの二つの翼を与えられた。そしてそこでへびからのがれて、一年、二年、また、半年の間、養われることになっていた。二五へびは女の後に水を川のように、口から吐き出して、女をおし流そうとした。二六しかし、地は女を助けた。すなわち、地はその口を開いて、龍が口から吐き出した川を飲みほした。二七龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持つている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。二八そして、海の砂の上に立った。

第一三章 「わたしはまた、一匹の獣が海から

上つて来るのを見た。それには角が十本、頭が七つあり、それらの角には十の冠があつて、頭には神を汚す名がついていた。二わたしを見たこの獣はひょうに似ており、その足はくまの足のようで、その口はししの口のようにであった。龍は自分の力と位と大いなる権威とを、この獣

に与えた。三その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人は驚きおそれ、その獣に従い、四また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だが、この獣に匹敵し得ようか。だが、これと戦うことができようか」。五この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられ、四十二か月のあいだ活動する権威が与えられた。六そこで、彼は口を開いて神を汚し、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちとを汚した。七そして彼は、聖徒に戦いをいどんでこれに勝つことを許され、さらに、すべての部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。八地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、その名を世の初めからしるされていない者はみな、この獣を拜むであろう。九耳のある者は、聞くがよい。一〇とりこになるべき者は、とりこになっていく。つるぎで殺す者は、自らもつるぎで殺されねばならない。ここに、聖徒たちの忍耐と信仰とがある。

二わたしはまた、ほかの獣が地から上って来るのを見た。それには小羊のような角が二つあって、龍のように物を言った。三そして、先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣を拝ませた。三また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせること

さえした。一四さらに、先の獣の前で行うのを許されしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。一五それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。一六また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、一七この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもしないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。一八ここに、知恵が必要である。思慮のある者は、獣の数字を解くがよい。その数字とは、人間をさすものである。そして、その数字は六百六十六である。

第一 四章 一なお、わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた。二またわたしは、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような声が、天から出るのを聞いた。わたしの聞いたその声は、琴をひく人が立琴をひく音のようでもあった。三彼らは、御座の前、四つの生き物と長老たちとの前で、新しい歌を歌った。この歌は、地からあがなわれた十四万四千人のほかは、だれも学ぶことができなかった。四彼らは、女にふれたことのない者で



ある。彼らは、純潔な者である。そして、小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにさげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。五 彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。

六 わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、七 大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。

八 また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」。

九 ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受けた、一〇 神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。二 その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない。三 ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。

三 またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今から後、主にあって死ぬ死人はさいわいである』。御霊も言う、「しかり、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく」。

四 また見ていると、見よ、白い雲があつて、その雲の上に人の子のような者が座しており、頭には金の冠をいただき、手には鋭いかまを持っていた。五 すると、もうひとりの御使が聖所から出てきて、雲の上に座している者にむかつて大声で叫んだ、「かまを入れて刈り取りなさい。地の穀物は全く実り、刈り取るべき時がきた」。

六 雲の上に座している者は、そのかまを地に投げ入れた。すると、地のものが刈り取られた。

七 また、もうひとりの御使が、天の聖所から出てきたが、彼もまた鋭いかまを持っていた。八 さらに、もうひとりの御使で、火を支配する権威を持つている者が、祭壇から出てきて、鋭いかまを持つ御使にむかい、大声で言った、「その鋭いかまを地に入れて、地のぶどうのぶさを刈り集めなさい。ぶどうの実がすでに熟しているから」。

九 そこで、御使はそのかまを地に投げ入れて、地のぶどうを刈り集め、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ込んだ。一〇 そして、その酒ぶねが都の外で踏まれた。すると、血が酒ぶねから流れ出て、馬のくつわにとどくほどになり、一千六百丁にわたってひろがった。

第一五章 一 またわたしは、天に大いなる驚くべ

きほかのしるしを見た。七人の御使が、最後の七つの災害を携えていた。これらの災害で神の激しい怒りがその頂点に達するのである。二またわたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに、獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た。三彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌って言った、  
「全能者にして主なる神よ。」

あなたのみわざは、  
大いなる、また驚くべきものであります。  
万民の王よ、

あなたの道は正しく、かつ真実であります。

主よ、あなたをおそれず、  
御名をほめたたえない者が、ありましようか。

あなただけが聖なるかたであり、  
あらゆる国民はきて、あなたを伏し拝むでしょう。

あなたの正しいさばきが、

あらわれるに至ったからであります。

五その後、わたしが見ていると、天にある、あかしの幕屋の聖所が開かれ、六その聖所から、七つの災害を携えてくる七人の御使が、汚れのない、光り輝く亜麻布を身にまとい、金の帯を胸にしめて、出てきた。七そして、四つの生き物の一つが、世々限りなく生きておられる神の激しい怒りの満ちた七つの金の鉢を、七人の御使に渡

した。八すると、聖所は神の栄光とその力とから立ちのぼる煙で満たされ、七人の御使の七つの災害が終ってしまうまでは、だれも聖所にはいることができなかった。

第一 十六章 「それから、大きな声が聖所から出て、七人の御使にむかい、「さあ行って、神の激しい怒りの七つの鉢を、地に傾けよ」と言うのを聞いた。

二そして、第一の者が出て行って、その鉢を地に傾けた。すると、獣の刻印を持つ人々と、その像を拝む人々とのからだに、ひどい悪性のでき物ができた。

三第二の者が、その鉢を海に傾けた。すると、海は死人の血のようになって、その中の生き物がみな死んでしまった。

四第三の者がその鉢を川と水の源とに傾けた。すると、みな血になった。五それから、水をつかさどる御使がこう言うのを、聞いた、「今いまし、昔いませる聖なる者よ。このようにお定めになったあなたは、正しいかたであります。

六聖徒と預言者との血を流した者たちに、血をお飲ませになりましたが、それは当然のことです。七わたしはまた祭壇がこう言うのを聞いた、「全能者にして主なる神よ。しかり、あなたのさばきは真実で、かつ正しいさばきであります」。

八第四の者が、その鉢を太陽に傾けた。すると、太陽は火で人々を焼くことを許された。九人々は、激しい炎熱で焼かれたが、これらの災害を支配する神の御名を汚

し、悔い改めて神に栄光を帰することをしなかった。

第五の者が、その鉢を獣の座に傾けた。すると、獣の国は暗くなり、人々は苦痛のあまり舌をかみ、二その苦痛とでき物とのゆえに、天の神をのろった。そして、自分の行いを悔い改めなかった。

第六の者が、その鉢を大エウフラテ川に傾けた。すると、その水は、日の出る方から来る王たちに對し道を備えるために、かれてしまった。三また見ると、龍の口から、獣の口から、にせ預言者の口から、かえるのような三つの汚れた霊が出てきた。四これらは、しるしを行なう悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の偉いなる日に、戦いをするためであつた。五見よ、わたしは盗人のように来る。裸のまま歩かないように、また、裸の恥を見られないように、目をさまし着物を身に着けている者は、さいわいである。六三つの霊は、ヘブル語でハルマゲドンという所に、王たちを召集した。

第七の者が、その鉢を空中に傾けた。すると、大きな声が聖所の中から、御座から出て、「事はすでに成つた」と言つた。八すると、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴とが起り、また激しい地震があつた。それは人間が地上にあらわれて以来、かつてなかったようなもので、それほどに激しい地震であつた。九大いなる都は三つに裂かれ、諸国民の町々は倒れた。神は大いなるバビロンを思

い起し、これに神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与へられた。一〇島々はみな逃げ去り、山々は見えなくなつた。三また一タラントの重さほどの大きな雹が、天から人々の上に降つてきた。人々は、この雹の災害のゆえに神をのろつた。その災害が、非常に大きかつたからである。

第十七章 一それから、七つの鉢を持つ七人の御使のひとりが出て、わたしに語つて言つた、「さあ、きなさい。多くの水の上にすわっている大淫婦に對するさばきを、見せよう。二地の王たちはこの女と淫淫を行ひ、地に住む人々はこの女の姦淫のぶどう酒に酔ひしれていゝ。三御使は、わたしを御霊に感じたまま、荒野へ連れで行つた。わたしは、そこでひとりの女が赤い獣に乗っているのを見た。その獣は神を汚すかかずの名でおおわれ、また、それに七つの頭と十の角とがあつた。四この女は紫と赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものと自分の姦淫の汚れとで満ちている金の杯を手に持ち、五その額には、一つの名がしるされてゐた。それは奥義であつて、「大いなるバビロン、淫婦どもと地の憎むべきものらとの母」というのであつた。六わたしは、この女が聖徒の血とイエスの証人の血に酔ひしれてゐるのを見た。

この女を見た時、わたしは非常に驚きあやしんだ。七すると、御使はわたしに言つた、「なぜそんなに驚くのか。この女の奥義と、女を乗せてゐる七つの頭と十の角



のある獣の奥義とを、話してあげよう。ハあなたの見た獣は、昔はいたが、今はおらず、そして、やがて底知れぬ所から上ってきて、ついには滅びに至るものである。地に住む者のうち、世の初めからのちの書に名をしるされていない者たちは、この獣が、昔はいたが今はおらず、やがて来るのを見て、驚きあやしむであろう。九ここに、知恵のある心が必要である。七つの頭は、この女のすわっている七つの山であり、また、七人の王のことである。一〇そのうちの五人はすでに倒れ、ひとりは今おり、もうひとりは、まだきていない。それが来れば、しばらくの間だけおることになっている。二昔はいたが今はいないという獣は、すなわち第八のものであるが、またそれは、かの七人の中のひとりであって、ついには滅びに至るものである。三あなたの見た十の角は、十人の王のことであって、彼らはまだ国を受けてはいないが、獣と共に、一時だけ王としての権威を受ける。四彼らは心をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える。五彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る」。

一五御使はまた、わたしに言った、「あなたの見た水、すなわち、淫婦のすわっている所は、あらゆる民族、群衆、国民、国語である。一六あなたの見た十の角と獣とは、こ

の淫婦を憎み、みじめな者にし、裸にし、彼女の肉を食い、火で焼き尽くすであらう。一七神は、御言が成就する時まで、彼らの心の中に、御旨を行い、思いをひとつにし、彼らの支配権を獣に与える思いを持つようにされたからである。一八あなたの見たかの女は、地の王たちを支配する大いなる都のことである」。

第一八章 一この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。二彼は力強い声で叫んで言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなった。三すべての国民は、彼女の姦淫に対する激しい怒りのぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と姦淫を行い、地上の商人たちは、彼女の極度のぜいたくによって富を得たからである」。

四わたしはまた、もうひとつの声が天から出るのを聞いた、「わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。五彼女の罪は積み積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる。六彼女がしたとおり、彼女に返し、そのしわざに応じて二倍に報復をし、彼女が混ぜて入れた杯の中に、その倍の量を入れてやれ。七彼女が自ら高ぶり、ぜいたくをほし、いまにしたので、

それに対して、同じほどの苦しみと悲しみとを味わわせてやれ。彼女は心の中で『わたしは女王の位についている者であつて、やもめではないのだから、悲しみを知らない』と言っている。『それゆえ、さまざまの災害が、死と悲しみとききんとが、一日のうちに彼女を襲い、そして、彼女は火で焼かれてしまう。彼女をさばく主なる神は、力強いかなたなのである。彼女と姦淫を行い、ぜいたくをほしきままにしていた地の王たちは、彼女が焼かれる火の煙を見て、彼女のために胸を打って泣き悲しみ、彼女の苦しみに恐れをいだき、遠くに立って言うであらう、『ああ、わざわいだ、大いなる都、不落の都、バビロンは、わざわいだ。おまえに對するさばきは、一瞬にしてきた』。二また、地の商人たちも彼女のために泣き悲しむ。もはや、彼らの商品を買う者が、ひとりもないからである。三その商品は、金、銀、宝石、真珠、麻布、紫布、絹、緋布、各種の香木、各種の象牙細工、高価な木材、銅、鉄、大理石などの器、肉桂、香料、香、におい油、乳香、ぶどう酒、オリーブ油、麦粉、麦、牛、羊、馬、車、奴隸、そして人身などである。四おまえの心の喜びであつたものはなくなり、あらゆるはでな、はなやかな物はおまえから消え去つた。それらのものはもはや見られない。五これらの品々を売って、彼女から富を得た商人は、彼女の苦しみに恐れをいだいて遠くに立ち、泣き悲しんで言う、『ああ、わざわいだ、

麻布と紫布と緋布をまとい、金や宝石や真珠で身を飾つていた大いなる都は、わざわいだ。一七これほどの富が、一瞬にして無に帰してしまふとは。また、すべての船長、航海者、水夫、すべて海で働いている人たちは、遠くに立ち、彼女が焼かれる火の煙を見て、叫んで言う、『これほどの大いなる都は、どこにあるう』。一八彼らは頭にちりをかぶり、泣き悲しんで叫ぶ、『ああ、わざわいだ、この大いなる都は、わざわいだ。そのおごりによつて、海に舟を持つすべての人が富を得ていたのに、この都も一瞬にして無に帰してしまつた』。一九天よ、聖徒たちよ、使徒たちよ、預言者たちよ。この都について大いに喜べ。神は、あなたがたのために、この都をさばかれたのである。』

三すると、ひとりの力強い御使が、大きなひきうすのような石を持ちあげ、それを海に投げ込んで言つた、『大いなる都バビロンは、このように激しく打ち倒され、そして、全く姿を消してしまふ。三また、おまえの中では、立琴をひく者、歌を歌う者、笛を吹く者、ラッパを吹き鳴らす者の樂の音は全く聞かれず、あらゆる仕事の職人たちも全く姿を消し、また、ひきうすの音も、全く聞かれぬ。三三また、おまえの中では、あかりもとまされず、花婿、花嫁の聲も聞かれぬ。』というのは、おまえの商人たちは地上で勢力を張る者となり、すべての国民はおまえのまじないでだまされ、二四また、預言者や聖徒の血、

さらに、地上で殺されたすべての者の血が、この都で流されたからである」。

第一九章 「この後、わたしは天の大群衆が大声で唱えるような声を聞いた、

「ハレルヤ、救と栄光と力とは、

われらの神のものであり、

二そのさばきは、真実で正しい。

神は、姦淫で地を汚した大淫婦をさばき、

神の僕たちの血の報復を

彼女になさったからである」。

三再び声があつて、「ハレルヤ、彼女が焼かれる火の煙

は、世々限りなく立ちのぼる」と言った。四すると、二

十四人の長老と四つの生き物とがひれ伏し、御座にいま

す神を拝して言った、「アーメン、ハレルヤ」。五その時、

御座から声が出て言った、

「すべての神の僕たちよ、神をおそれる者たちよ。

小さき者も大いなる者も、

共に、われらの神をさんびせよ」。

六わたしはまた、大群衆の声、多くの水の音、また激し

い雷鳴のようなものを聞いた。それはこう言った、

「ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、

王なる支配者であられる。

七わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。

小羊の婚姻の時がきて、

花嫁はその用意をしたからである。

八彼女は、光り輝く、

汚れのない麻布の衣を着ることを許された。

この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである」。

九それから、御使はわたしに言った、「書きしるせ。小

羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである」。またわた

しに言った、「これらは、神の真実の言葉である」。一〇そ

こで、わたしは彼の足もとにひれ伏して、彼を拝そうと

した。すると、彼は言った、「そのようなことをしてはい

けない。わたしは、あなたと同じ僕仲間であり、また

イエスのあかしびとであるあなたの兄弟たちと同じ僕仲

間である。ただ神だけを拝しなさい。イエスのあかしは、

すなわち預言の霊である」。

二またわたしが見てみると、天が開かれ、見よ、そこ

に白い馬がいた。それに乗っているかたは、「忠実で真実

な者」と呼ばれ、義によつてさばき、また、戦うかたで

ある。三その目は燃える炎であり、その頭には多くの冠

があつた。また、彼以外にはだれも知らない名がその身

にしるされていた。四彼は血染めの衣をまとい、その名

は「神の言」と呼ばれた。五そして、天の軍勢が、純白

で、汚れのない麻布の衣を着て、白い馬に乗り、彼に

従つた。六その口からは、諸国民を打つために、鋭いつ

るぎが出ていた。彼は、鉄のつえをもつて諸国民を治め、

また、全能者なる神の激しい怒りの酒ぶねを踏む。一六そ



の着物にも、そのものにも、「王の王、主の主」という名がしるされていた。

二七また見てみると、ひとりの御使が太陽の中に立っていた。彼は、中空を飛んでいるすべての鳥にむかつて、大声で叫んだ、「さあ、神の大宴会に集まってこい。一八そして、王たちの肉、將軍の肉、勇者の肉、馬の肉、馬に乗っている者の肉、また、すべての自由人と奴隷との肉、小さき者と大いなる者との肉をくらえ」。

一九なお見てみると、獣と地の王たちと彼らの軍勢とが集まり、馬に乗っているかたとその軍勢とに対して、戦いをいどんだ。二〇しかし、獣は捕えられ、また、この獣の前でしるしを行って、獣の刻印を受けた者とその像を拜む者とを惑わしたにせ預言者も、獣と共に捕えられた。そして、この両者とも、生きながら、硫黄の燃えている火の池に投げ込まれた。二三それ以外の者たちは、馬に乗っておられるかたの口から出るつるぎで切り殺され、その肉を、すべての鳥が飽きるまで食べた。

第二〇章 一またわたしが見ていると、ひとりの御使が、底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手にとって、天から降りてきた。二彼は、悪魔でありサタンである龍、すなわち、かの年を経たへびを捕えて千年の間つなぎおき、三そして、底知れぬ所に投げ込み、入口を閉じてその上に封印し、千年の期間が終るまで、諸国民を惑わすことがないようにしておいた。その後、しばらくの

間だけ解放されることになっていた。

四また見てみると、かず多くの座があり、その上に人がすわっていた。そして、彼らにさばきの権が与えられていた。また、イエスのあかしをし神の言を伝えたために首を切られた人々の霊がそこにおり、また、獣をもその像をも拜まず、その刻印を額や手に受けることをしなかつた人々がいた。彼らは生きかえって、キリストと共に千年の間、支配した。(五それ以外の死人は、千年の期間が終るまで生きかえらなかつた。)これが第一の復活である。六この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また聖なる者である。この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する。

七千年の期間が終ると、サタンはその獄から解放される。八そして、出て行き、地の四方にいる諸国民、すなわちゴグ、マゴグを惑わし、彼らを戦いのために召集する。その数は、海の砂のように多い。九彼らは地上の広い所に上ってきて、聖徒たちの陣営と愛されていた都とを包囲した。すると、天から火が下ってきて、彼らを焼き尽した。一〇そして、彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄との池に投げ込まれた。そこには、獣もにせ預言者もいて、彼らは世々限りなく日夜、苦しめられるのである。

二また見てみると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあった。天も地も御顔の前から逃げ去って、

あとかたもなくなくなった。三また、死んでいた者が、大なる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であつた。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれてゐることにしたが、さばかれた。三海はその中にゐる死人を出し、死も黄泉もその中にゐる死人を出し、そして、おのおのそのしわざに応じ、さばきを受けた。四それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。五このいのちの書に名がしるされてゐない者はみな、火の池に投げ込まれた。

第二章 「わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなくなつてしまつた。二また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾つた花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下つて来るのを見た。三また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、四人の目から涙を全くぬぐい下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。五先のものが、すでに過ぎ去つたからである」。六すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」。また言われた、「書きしるせ。これらの言葉は、信すべきであり、まことである」。

七そして、わたしに仰せられた、「事はすでに成つた。わたしは、アルパでありオメガである。初めであり終りである。かわいてゐる者には、いのちの水の泉から価なしに飲ませよう。八勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐであろう。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。九しかし、おくびょうな者、信じない者、忌むべき者、人殺し、姦淫を行う者、まじないをする者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者には、火と硫黄の燃えている池が、彼らの受くべき報いである。これが第二の死である」。

最後の七つの災害が満ちてゐる七つの鉢を持つていた七人の御使のひとりが出て、わたしに語つて言つた、「さあ、きなさい。小羊の妻なる花嫁を見せよう」。この御使は、わたしを御霊に感じたまふ、大きな高い山に連れて行き、聖都エルサレムが、神の栄光のうちに、神のみもとを出て天から下つて来るのを見せてくれた。二その都の輝きは、高価な寶石のようであり、透明な碧玉のようであつた。三それには大きな、高い城壁があつて、十二の門があり、それらの門には、十二の御使がおり、イスラエルの子らの十二部族の名が、それに書いてあつた。四東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があつた。五また都の城壁には十二の土台があり、それには小羊の十二使徒の十二の名が書いてあつた。



二五 わたしに語っていた者は、都とその門と城壁とを測るために、金の測りざおを持っていた。二六 都は方形であつて、その長さと幅とは同じである。彼がその測りざおで都を測ると、一万二千丁であつた。長さと幅と高さとは、いずれも同じである。二七 また城壁を測ると、百四十四キュビトであつた。これは人間の、すなわち、御使の尺度によるのである。二八 城壁は碧玉で築かれ、都はすきとおつたガラスのような純金で造られていた。二九 都の城壁の土台は、さまざまな寶石で飾られていた。第一の土台は碧玉、第二はサファイヤ、第三はめのう、第四は緑玉、二〇 第五は縞めのう、第六は赤めのう、第七はかんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉石、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であつた。三十二の門は十二の真珠であり、門はそれぞれ一つの真珠で造られ、都の大通りは、すきとおつたガラスのような純金であつた。

三 わたしは、この都の中には聖所を見なかつた。全能者にして主なる神と小羊とが、その聖所なのである。三三 都は、日月がそれを照す必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである。三四 諸国民は都の光の中を歩き、地の王たちは、自分たちの栄光をそこに携えて来る。三五 都の門は、終日、閉ざされることはない。そこには夜がないからである。二六 人々は、諸国民の栄光とほまれとをそこに携えて来る。二七 しかし、汚

れた者や、忌むべきこと及び偽りを行う者は、その中に決してはいれない。はいれる者は、小羊のいのちの書に名をしるされている者だけである。

第二二章 一 御使はまた、水晶のように輝いていゝいのちの水の川をわたしに見せてくれた。この川は、神と小羊との御座から出て、二 都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの木があつて、十二種の実を結び、その実は毎月みり、その木の葉は諸国民をいやす。三 のろむべきものは、もはや何ひとつない。神と小羊との御座は都の中にあり、その僕たちは彼を礼拝し、四 御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている。五 夜は、もはやない。あかりも太陽の光も、いらない。主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。

六 彼はまた、わたしに言った、「これらの言葉は信ずべきであり、まことである。預言者たちのたましいの神なる主は、すぐにも起るべきことをその僕たちに示そうとして、御使をつかわされたのである。七 見よ、わたしは、すぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである」。

八 これらのことを見聞きした者は、このヨハネである。わたしが見聞きした時、それらのことを示してくれた御使の足もとにひれ伏して拝せうとすると、九 彼は言った、「そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなた



や、あなたの兄弟である預言者たちや、この書の言葉を守る者たちと、同じ僕仲間である。ただ神だけを拝さない。

「またわたしに言った、『この書の預言の言葉を封じてはならない。時が近づいているからである。二不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うまにさせよ』」。

「三見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。四わたしはアルパであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である。初めであり、終りである。五いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである。六犬ども、まじないをする者、姦淫を行う者、人殺し、偶像を拝む者、また、偽りを好みかつこれを行う者はみな、外に出されてゐる。」

「六わたしイエスは、使をつかわして、諸教会のために、これらのことをあなたに告げさせた。わたしは、ダビデの若枝また子孫であり、輝く明けの明星である」。

「七御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい。かわいている者はここに來るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。」

「八この書の預言の言葉を聞くすべての人々に対して、わたしは警告する。もしこれに書き加える者があれば、神はその人に、この書に書かれてゐる災害を加えられる。九また、もしこの預言の書の言葉をとり除く者があれば、神はその人の受くべき分を、この書に書かれてゐるいのちの木と聖なる都から、とり除かれる。」

「十これらのことをあかしするがたが仰せになる、『しかし、わたしはすぐに来る』。アーメン、主イエスよ、きたりませ。」

「主イエスの恵みが、一同の者と共にあるように。」